

2福イ第3631号
令和3年2月16日

降雨・霧雨試験装置
使用者手引き
(第1版)

福島ロボットテストフィールド
令和 3年 3月 1日

改訂履歴

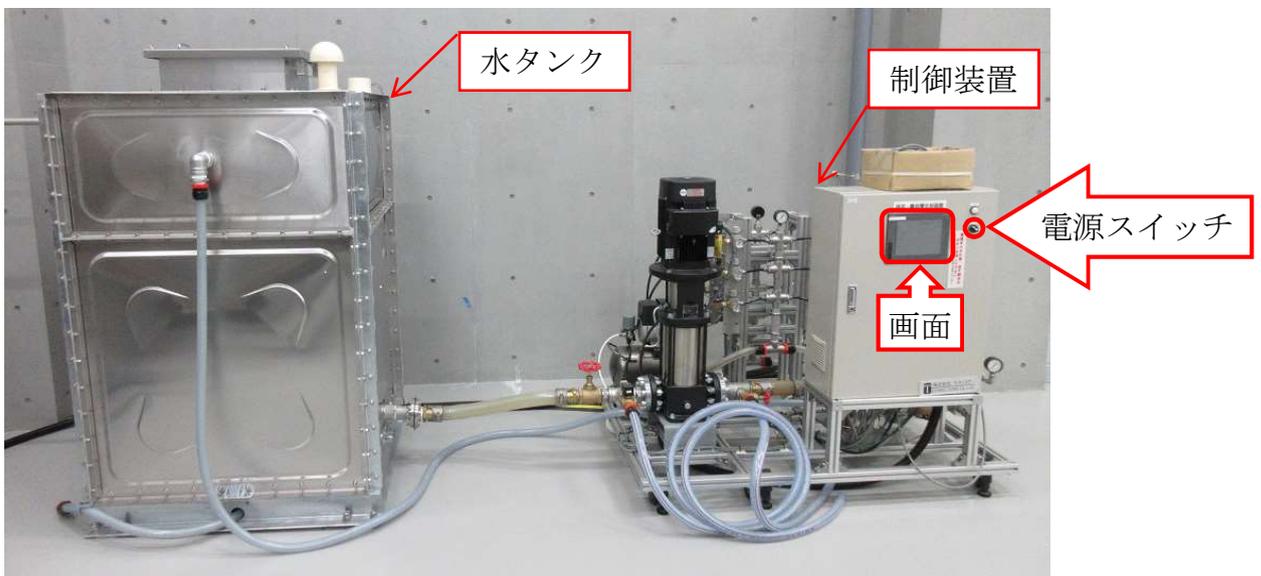
版	施行日	内容	作成
1	令和 3年 3月 1日	新規作成	技術課 課長代理 濱 野 漂太郎

目 次

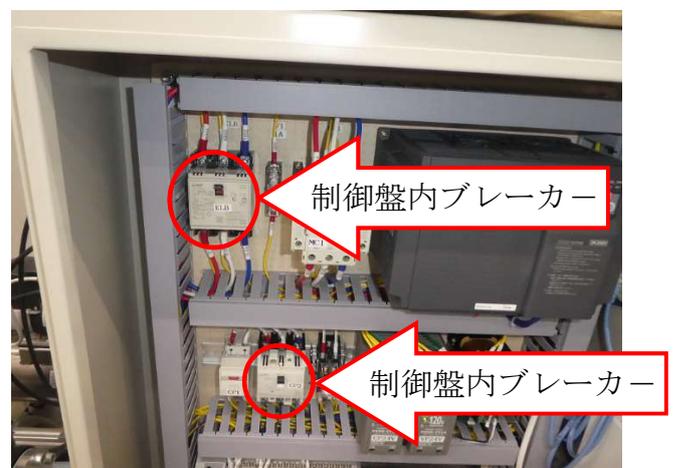
1	設備構成	1
	(1) 本 体	1
	(2) その他	1
2	注意事項	2
3	使用方法	2

1 設備構成

(1) 本体



(2) その他





2 注意事項

降雨・霧雨試験装置の使用にあたっては、以下の項目を守ってください。

- (1) 感電及び火災の恐れがあるため、イノベ機構の許可無く通電させた状態の電気・電子製品に対して降雨・霧雨装置を使用しない。
- (2) 感電、火災及び機器故障の恐れがあるため、使用前に、分電盤扉、試験装置扉、壁コンセント蓋が閉じていることを確認する。
- (3) 試験終了後、床の水は水切りワイパーで排水溝へ流す。

3 使用方法

(1) 準備

ア 水はノズルの下、4 m×4 mの範囲で降るので、その範囲内に被試験体を置く。

被試験体が小さい場合は、適宜「すのこ」を使用する。

イ 上水道の弁を開ける。

ウ コンプレッサー下部の、ドレインコックを閉める。

エ 分電盤のブレーカーをONにする。

オ 制御装置内のブレーカー「ELB」及び「CP1」をONにする。

カ 「電源スイッチ」を時計方向へ90度回しONにする。この際、白いランプが点灯及びコンプレッサーが始動し、数秒後に制御装置の画面が表示される。

※コンプレッサーのエアが溜まるまで数分かかる。

キ 制御装置の画面から「メイン画面」を選択し、「給水SW」を押し、タンク水位が上限になるまで待機(最大20分)する。

(2) 試験実施

ア 「メイン画面」で警告が点灯していない事を確認し、降雨動作を下記のいずれか1つを選択する。

霧雨、10、20、30、40、50、60、70、80、90、100、
110、120、130、140、150、160、170、180、径1mm、
径3mm（数字のみ表記の単位はmm/h）

イ 「サブ画面」の「降雨動作タイマー」に降雨時間（1～600分）を設定する。

ウ 「メイン画面」に戻り「開始SW」を押し、降雨動作を開始する。

エ 「メイン画面」に降雨停止までの時間が「あと〇〇分」と表示される。

オ 「降雨動作タイマー」の設定時間が経過すると降雨が停止する。

※以下の場合も降雨が停止するので注意すること。

①タンク水位が下限に達した場合

タンクに水が溜まった後、降雨を継続する。

②「停止SW」を押しした場合

カ 降雨が停止すると続けて「掃気動作」が始まる。降雨を継続する場合は、「掃気停止」を押し。

(3) 試験終了後

ア 「サブ画面」で「強制掃気」を押し、圧縮空気で配管・ノズル内に残っている水分を飛ばす。

※掃気時間は、10分に設定済

イ 強制掃気終了後、制御装置の「電源SW」をOFFにする。

ウ 制御装置内のブレーカー、「ELB」及び「CP1」をOFFにする。

エ コンプレッサーのドレインコックを開け、コンプレッサータンク内の圧縮空気を開放する。

オ 分電盤内のブレーカーをOFFにする。

カ 水切りワイパーで床に飛び散った水を、排水口に流す。